



Newspaper in Education



昇降口から徒歩1分。校舎から県道を挟んだ隣接地の田んぼ（1ヶ畝）で稲作を行う下田市大賀茂小5年生。同小では

### 小・中学生 環境リポ-4- 現場ノート

下田市立大賀茂小



自分たちで育てた稲穂を確認する下田市立大賀茂小5年の児童—同市大賀茂



県道下田南伊豆線  
下田市立大賀茂小  
大賀茂川  
大賀茂小の水田  
下田市立大賀茂保育所

1989年から稲作体験を行い、米は地域の収穫祭でおにぎりやお餅にして住民に振る舞っている。同小の児童は67人（5年生は13人。市内七つの小学校の中で最も規模が小さい。稲作体験を授業に取り入れる小学校は少ないが、同小は児童の少な

## “5年生の田んぼ”大切に

さを生かし、5年生全員が細かな作業にも主体的に関わっている。春先、レンゲの草刈りや「田起こし」に始まり、苗もモミまきをして自分たちで作っている。田植え後も、地元の農家のアドバイスを受けながら、水田の水の量の管理をしたり、ヒエなどの雑草を駆除したりして、大切に育ててきた。子供たちの会話が自然と稲作に向かうのは、あえて過剰な「お膳立て」をしないから。「実体験を通じて食糧問題や環境問題について考えてほしい」という外岡康光校長（60）の方針ゆえだ。環境リポーターを務めてくれたのは、いずれも同小5年の菊池晶くん（11）、細金りんさん（11）、佐久間真澄くん（11）、渡辺夢叶さん（11）の4人。「自分たちの田んぼ」を案内する姿はどこか誇らしげだ。佐久間くんは授業中も気になって窓から田んぼをのぞいています。待ちに待った稲刈りはすぐそこだ。

①記事から、（ ）に言葉を入れましょう。

春先、（ ）の草刈りや「（ ）」に始まり、苗も（ ）まきをして自分たちで作っている。

田植え後は水田の（ ）の量を管理したり、（ ）などの雑草を駆除する。

2012年9月14日朝刊 東部版

③収穫しゅうかくしたお米は、いつ、どのようにして食べますか。

年 組 名前

(小学校高学年 国語・総合)